

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

ドル/円相場のトレード戦略

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み 110 円台を回復する動きとなっています。

6月のFOMCでは本年4回の利上げ期待を高める内容となっており、また初の米朝首脳会談を無事こなしたことでアジアの地政学リスクも低下しており、ドル/円は底堅い動きが予想されます。もともと、米国を中心とした貿易摩擦の激化はドルの上昇抑制要因であり、この点を考慮すると年後半もレンジ相場が継続するという見方を大幅に変更する必要はないものと考えられます。

■短期展望

先週は110円後半でスタートした後、ドルがじりじりと上昇する動きとなりました。

トルコ中銀の市場予想を上回る利上げや無秩序なBrexitへの懸念がやや後退したことで、リスクオフのムードからドルがやや優勢に推移し、一時112円台を回復しました。

米国の物価上昇ペースが鈍化したとの思惑が米国株の上昇につながり、これもドルを下支えした要因との指摘もあります。

今週も、ドルの底堅い動きが継続することが予想されます。

ただし米国の各国との貿易摩擦激化への懸念は強く残っており、これがドルの上値を抑える要因となるでしょう。

円に関しては、現在明確な材料がなく、ドルの上下または新興国通貨の変動によるクロス円の上下に振り回される動きで、今週も110円～113円のレンジを大きく外れる動きは期待しにくいといえるでしょう。